

サン=テグジュペリ—王子さまとその時代—

Antoine de Saint-Exupéry ~ Le prince et son temps ~

世界中で聖書の次に多くの人に読まれているという『星の王子さま』

(原題: *Le petit prince*) の作者として広く知られているサン=テグジュペリ。彼は作家として数々の作品をのこしましたが、それ以外にも郵便飛行士やフランス軍のパイロットとして、生涯空を飛び続けました。

また、1939年に始まった第二次世界大戦ではパイロットとして出撃したのみならず、フランス国内で起こっていたドゴール派とヴィシー派の政治的抗争にも巻き込まれました。

彼の作品には、このような彼の体験の数々が描かれています。

サン=テグジュペリは、1944年にコルシカ島の基地から飛び立ったまま、その消息を絶ちました。乗っていた機体は未だ見つかっておらず、まるで『星の王子さま』の王子さまと同じように、消え去ってしまったのです。

彼の作品を通じてサン=テグジュペリの人生、そして彼の生きた時代を、少しでも、感じてみてはいかがでしょうか？

On ne voit bien qu'avec le coeur. L'essentiel est invisible pour les yeux.
心で見なくちゃ、ものごとは見えないってことさ。かんじんなことは、目には見えないんだよ。

平成 17 年 6 月 - 7 月 学習院大学図書館

《サン=テグジュペリ略年譜》

- 1900年 フランスのリヨン市に生まれる。
- 1912年 サン=モーリス近郊のアンペリュール飛行場で、ガブリエル・ウロブレウスキーの操縦する飛行機で初めて空を飛ぶ。
- 1917年 『若き日の手紙』の文通相手、ルネ・ド・ソーシーヌと知り合う。
- 1921年 民間飛行免許を取得。
- 1926年 ブレゲー14型機でトゥルーズーアリカンテ間を最初の郵便飛行。
- 1927年 サハラ砂漠大西洋岸のキャップ・ジュビー中継基地の飛行隊長に任命される。ここで『南方郵便機』の執筆を開始。
- 1929年 7月、ガリマール書店より『南方郵便機』出版。この頃、ブレゲー14型機に代わって郵便飛行用に設計されたラテコエール25型・26型の登場により、夜間飛行が可能となる。『夜間飛行』を執筆する。
- 1931年 コンスエロと結婚。10月、アンドレ・ジッドの序文を付してガリマール書店より『夜間飛行』出版。フェミナ賞を受賞する。
- 1934年 3月、クラレンス・ブラウンにより映画化された『夜間飛行』がパリで公開される。エールフランスの宣伝部に入る。
- 1935年 この年から、ポケットに小さな革表紙のノートを持ち歩く。死後にこれが『手帖』として出版される。5月、『パリ・ソワール』の特派員としてモスクワへ派遣され、その滞在中の体験を元に映画脚本『アンヌ・マリー』を執筆。レイモン・ベルナル監督で映画化され、翌年公開。12月29日にブルジェ飛行場を出発するが、カイロから200キロ地点のリビア砂漠に不時着。1月1日、ベドウィン族の遊牧民に救われ、奇跡の生還。
のちに、『星の王子さま』のパイロットも同じく砂漠に不時着し、「王子さま」と出会う。

☆キーワード① “Saint-Ex” と “Tonio” ☆—————* *
“Saint-Ex” (サンテックス)、“Tonio” (トニオ)とはサン=テグジュペリの愛称です。展示資料の中でも、友人たちが親しみをこめてこう呼んでいます。フランスの人たちは、今でも彼を「サンテックス」と呼んでいるそうです。

* * —————☆☆

《展示資料一覧》

- 1936年 ピエール・ピヨン監督で『南方郵便機』映画化。
- 1939年 3月、『人間の大地』をガリマール書店より出版。アカデミー・フランセーズ小説大賞を受賞。
9月2日、第二次世界大戦が始まる。4日、予備大尉として召集を受ける。
- 1940年 『人間の大地』がアメリカで39年度全米図書賞を受賞。
3月31日、第一回目の出撃。終戦までに出撃は7回に及んだ。
- 1941年 ニューヨークのセントラル・パーク・サウスに居を定める。
ヴィシー政府より国民評議会メンバーに指名されたことを知り、『ニューヨーク・タイムズ』紙に拒否声明
- 1942年 2月、『戦う操縦士』出版。
11月29日、ニューヨークのラジオ放送を通じ「まずフランスなのだ」で始まるフランス人の和解と団結の呼びかけを行う。
ドゴール派のジャック・マリタンが、『プール・ラ・ヴィクトワール』紙（ドゴール派の新聞）に「ときには裁かねばならぬ」を発表し、サン=テグジュペリとの間に論争が始まる。
- 1943年 フランスで『戦う操縦士』が占領軍により発売禁止令を受ける。
『ある人質への手紙』の第一部がカナダの『ラメリック・フランセーズ』誌に掲載される。
4月、『星の王子さま』の英語版とフランス語版が出版される。
- 1944年 5月、原隊復帰が許可され、サルディニア、アルゲーロ基地に赴任。
7月31日、グルノーブル・アルシー方面の写真偵察のためボルゴ基地より発進、その後消息を絶つ。コート・ダジュール沖合でドイツ軍戦闘機に撃墜されたものと推定される。
彼の飛行機は、未だ発見されていない。

☆ キーワード②「新・星の王子さま」 ☆—————**

これまで日本には、内藤濯(あろう)氏によって翻訳された『星の王子さま』しか存在していませんでしたが、この作品の日本での著作権が今年1月に切れたことを受けて、この6月から新訳が続々と出版されるそうです。

しかし、そもそも『星の王子さま』というタイトル自体が内藤氏のアイデア。新訳のタイトルはどのようになるのかも注目ですね。

**—————☆☆

☆まず、『星の王子さま』から始めましょう☆

1. *Le petit prince* / Antoine de Saint-Exupéry ; avec le dessin de l'auteur
Gallimard, 1946 [請求記号 O/058/1 (フランス・書庫)]

『星の王子さま』フランス語版です。現在世界中で100以上の言語に翻訳され、多くの人に愛されています。
子供向けの物語として書かれていますが、この作品のなかには哲学的な言葉がたくさんちりばめられていて、大人のファンも多い作品です。

2. 星の王子さま: プチ・フランス / サン=テグジュペリ 著 内藤濯 訳
岩波書店 1953 [請求記号 K93/5 (大学図・書庫)]

そしてこれが、日本語翻訳版。日本では『星の王子さま』として広く知られ、親しまれていますが、本当はタイトルを直訳すると『小さな王子さま』です。

☆もっと深く読んでみたい方は・・・☆

3. 星の王子さまの世界: 読みくらべへの招待 / 塚崎幹夫 著 中央公論社 1982
[請求記号 081.2/58/638 (大学図・開架)]
4. 永遠の少年: 『星の王子さま』の深層 / M.-L. フォン・フランツ 著 松代洋一 権名恵子 訳 紀伊国屋書店 1982 [請求記号 953/169 (大学図・書庫)]
- ユング派の心理学者、フォン・フランツが『星の王子さま』を題材に、現実から逃避している「永遠の少年」という病理を分析しています。『星の王子さま』またサン=テグジュペリに対してかなり厳しいことも書かれていますが、このような視点から見てみるのも興味深いかもしれません。
5. 星の王子さまの秘密 / 山崎庸一郎 著 弥生書房 1984
[請求記号 953/185 (大学図・書庫)]
6. 「星の王子さま」の心理学: 永遠の少年か、中心気質者か / 矢幡洋 著
大和書房 1995 [請求記号 950.28/218 (大学図・開架)]

この本の中には、4の「永遠の少年」説への反論が含まれています。実際に読む前は「アンチ・星の王子さま」だったという著者が、性格心理学的な視点から、王子さま、またサン=テグジュペリ自身について書いています。

7. 星の王子さまの恋愛論 / 三田誠広 著 日本経済新聞社 2000
[請求記号 950.28/262 (大学図・開架)]

8. 「星の王子さま」の見えない世界 / 水本弘文著 大学教育出版 2002
〔請求記号 950.28/288 (大学図・開架)〕

☆サン=テグジュペリのほかの作品も見てみましょう☆

9. 南方郵便機. 人間の大地 / 山崎庸一郎訳 みすず書房 1983
(サン=テグジュペリ著作集 1) 〔請求記号 950.8/46/1 (大学図・書庫)〕
10. 夜間飛行. 戦う操縦士 / 山崎庸一郎訳 みすず書房 1984
(サン=テグジュペリ著作集 2) 〔請求記号 950.8/46/2 (大学図・書庫)〕
11. 人生に意味を / 渡辺一民訳 みすず書房 1987
(サン=テグジュペリ著作集 3) 〔請求記号 950.8/46/3 (大学図・書庫)〕
12. 母への手紙. 若き日の手紙 / 山崎庸一郎訳 みすず書房 1987
(サン=テグジュペリ著作集 4) 〔請求記号 980.8/46/4 (大学図・書庫)〕
13. 手帖 / 杉山毅訳 みすず書房 1984 (サン=テグジュペリ著作集 5)
〔請求記号 950.8/46/5 (大学図・書庫)〕
- 14-16. 城砦 1-3 / 山崎庸一郎訳 みすず書房 1985-1963
(サン=テグジュペリ著作集 6-8) 〔請求記号 920.8/46/6-8 (大学図・書庫)〕
- 17-19. 戦時の記録 1-3 / 山崎庸一郎訳 みすず書房 1988-1989
(サン=テグジュペリ著作集 9-11) 〔請求記号 950.8/46/9-11 (大学図・書庫)〕
20. 証言と批判 / 山崎庸一郎編・訳 みすず書房 1990
(サン=テグジュペリ著作集 別巻) 〔請求記号 950.8/46/12 (大学図・書庫)〕

☆サン=テグジュペリのことを知ると、もっと作品が楽しめるかもしれません☆

21. サン=テグジュペリ愛と死 / ジュール・ロワ著 山崎庸一郎訳 晶文社 1969
〔請求記号 950.28/30 (大学図・書庫)〕
- 著者のジュール・ロワはサン=テグジュペリと同様、飛行士であり作家でした。
- 22-23. 空を耕すひと : サン=テグジュペリの生涯 上巻・下巻 /
カーティス・ケイト著 山崎庸一郎, 洪沢彰訳 番町書房 1974
〔請求記号 950.28/65/1-2 (大学図・書庫)〕

24. サン=テグジュペリ 改訂版 / R.-M.アルベレス著 中村三郎訳 白馬書房 1981
〔請求記号 950.28/105aア (大学図・書庫)〕

1946年に発表されたものに全面的な改訂を加えた本書は、これがフランスでおそらく初めてと言って良い、本格的なサン=テグジュペリ論です。

25. *Antoine de Saint-Exupéry, 1900-1944* Archives Nationales c1984
〔請求記号 O/058/5 (フランス・書庫)〕

26. *Saint-Exupéry tel que je l'ai connu ...* / Léon Werth
Viviane Hamy c1994 〔請求記号 O/058/5 (フランス・書庫)〕

サン=テグジュペリは、この本の著者レオン・ウェルトに『星の王子さま』を捧げました。正確には、「子どもだった頃のレオン・ウェルトに」ですが。ほかに、『ある人質への手紙』(サンテグジュペリ著作集 10 に収録)もレオン・ウェルトのある本への序文として書かれたものでした。『星の王子さま』の献辞のなかでレオン・ウェルトのことを、「第一の親友」と書いています。

27. *Antoine de Saint-Exupéry : Ô Consuelo : vérité et légendes /*
photographies collection Martinez Frutuoso ; texte Alain Vircondelet
Éditions du Chêne c2000 〔請求記号 O/058/5 (フランス・書庫)〕

28. 永遠の星の王子さま : サン=テグジュペリの最後の日々 /
ジョン・フィリップスほか著 山崎庸一郎訳 みすず書房 1994
〔請求記号 950.28/212 (大学図・開架)〕

29. 星の王子さまを探して / ポール・ウェブスター著 長島良三訳
角川書店 1996 〔請求記号 950.28/241 (大学図・開架)〕

30. *Consuelo de Saint-Exupéry : la rose du petit prince* / Paul Webster
Éditions du Félin c2000 〔請求記号 O/058/5 (フランス・書庫)〕

31. 親愛なるジャン・ルノワールへ / アントワーズ・ド・サン=テグジュペリ著
山崎庸一郎, 山崎紅子訳 ギャップ出版 2000
〔請求記号 950.28/263 (大学図・開架)〕

32. バラの回想 : 夫サン=テグジュペリとの14年 /
コンスエロ・ド・サン=テグジュペリ著 香川由利子訳 文藝春秋 2000
〔請求記号 950.28/269 (大学図・開架)〕

33. 『星の王子さま』のひと / 山崎庸一郎著 新潮社 2000
〔請求記号 Shincho/や47/1 (大学図・開架)〕

《参考文献》

- ・『ユリイカ：詩と評論』（32巻10号 通号435 2000年7月） 青土社
- ・山崎庸一郎「サン=テグジュペリ略年譜」
（『サン=テグジュペリ著作集 12月報』みすず書房 1990年）
- ・*Antoine de Saint-Exupéry : Ô Consuelo : vérité et légendes /*
photographies collection Martinez Frutuoso ; texte Alain Vircondelet
Éditions du Chêne c2000
- ・永遠の星の王子さま：サン=テグジュペリの最後の日々 /
ジョン・フィリップスほか著 山崎庸一郎訳 みすず書房 1994

※枠で囲んだ部分は原作および日本語翻訳版からの引用です。

Le petit prince / Antoine de Saint-Exupéry ; avec le dessin de l'auteur
Gallimard, 1946
「星の王子さま：プチ・プランス」サン=テグジュペリ著 内藤濯訳
岩波書店 1953

Toutes les grandes personnes ont d'abord été des enfants. (Mais peu d'entre elles s'en souviennent.)
おとなは、だれも、はじめは子どもだった。（しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない。）

☆——☆——☆——☆——☆——☆

「サン=テグジュペリ —王子さまとその時代—」

学習院大学図書館 6月—7月展示

平成17年6月1日発行

担当：整理課 山本